

かえるちゃん通信



イメージキャラクター
かえるちゃん

産育休中のみなさんお元気でお過ごしですか？
しばらく職場から離れているみなさんにとっては、新しい職場環境に復帰するにあたり、不安や戸惑いの気持ちをお持ちのことと思います。
このかえるちゃん通信を通して、そういうみなさんに、病院からの情報等を定期的にお届けします。今回は看護部長からのメッセージをお届けします。

かえるちゃんのネーミングの由来は、安心して職場に帰る（かえる）ことができるように...という思いが込められています。

看護部長からのメッセージ



平成27年4月から看護部長に就任しました谷です。どうぞよろしくお願ひします

平成27年度ももうすぐ終わろうとしています。
今年4月に入職した新人看護師は夜勤も一人前に行って、病院の大事な仲間となり、病棟や手術室で活躍してくれています。
さて、病院は相変わらず忙しいです。新聞で報道されてご存知かもしれませんが、心臓の新治療法（TAVI）も開始されています。ドクターヘリの運行も今年度は400件を超えそうです。

そのような中、医療を取り巻く環境としては、国が進めている2025年の超高齢社会問題があり、それに対応するため伊勢志摩地域においても、地域包括ケアシステム構築に向けて県や地域の医療関係者、住民などで地域医療調整会議が行われています。この会議には楠田院長も参加しています。

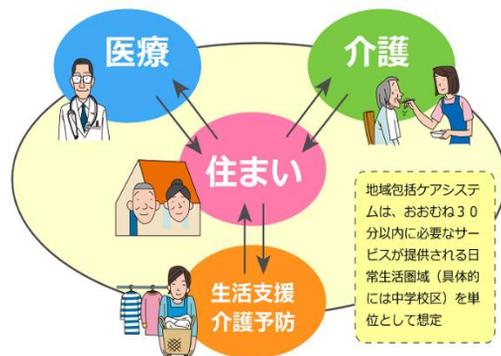
この地域包括ケアシステムとは、高齢者にその日常生活圏内で様々なサービスをトータルで提供する体制で、「時々入院、ほぼ在宅」という言葉通り、患者が住み慣れた地域で療養生活を行うことができる体制を作っていくことです。急性期病院である当院もそれを踏まえた対応が迫られています。このように病院の中も外も含め医療環境が大きく変わろうとしています。看護部としてもこれらに対応すべく、日々看護実践しています。

看護部の今年度の目標は、「看護の視点（生活者の視点）のアセスメント能力向上を図る」として、研修や訪問看護での同行訪問などを行い、学んでいます。認知症看護の研修会も開催しました。

皆さんは、今は子育ての真っ最中だと思いますが、多様な勤務体制をそろえて、皆さんのキャリア支援を準備しています。ペア担当制をとっている病棟も増えてきました。新企画の研修も多数行っていますので関心のある研修があれば、お休み中であっても参加していただいてもかまいません。どんどん参加しにきてください。

以上徒然なるままに病院の現況を述べました。
現在、伊勢ではインフルエンザが大流行しています。手洗い、うがい励行で健康に十分注意され、お過ごしください。ようお願いします。（谷 眞澄）

地域包括ケアシステムの姿



シリーズ部署紹介(3P1・3P2病棟)

3P1病棟は、地域周産期医療センターとしてハイリスク妊娠や分娩を受け入れています。

そのため母体搬送が増加し、帝王切開率も50%を超え、児のNICU搬送率も約70%になっています。

母と児の生命を守るため、NICUや手術室と連携し個別性を重視した看護に力を入れています。

3P2病棟は、眼科・消化器科病棟ですが、整形外科ともバディ体制をとっています。現在は内科系病棟としてさまざまな科の患者さんが入院されており、入退院の多い病棟です。高齢者や施設からの寝たきり患者さんも多いため早期からの退院支援やADLの維持・改善のケアに力を入れています。



高齢者の方は、車いすが利用できるようなになると、ナースステーション中央のテーブルに集まって、絵を書いたり趣味の塗り絵をしたり、タオル折りなどの作業をして過ごします。患者さん同士の会話や笑い声にスタッフも一緒になって、急性期医療の中と思えない、心癒される時間を過ごしています。



患者や家族との
ほっこり場面